

身体能力

柵を跳び超える力：助走なしで高さ 120 cm まで可能

ものを持ち上げる力：60～70 kg まで

色覚：青や紫ははっきり識別するが、赤や黄緑は難しい

嗅覚：非常に良い

(参考文献 1)

■ すぐに学習するが、おくびょうもの ■

イノシシは非常に運動能力が高いのですが、性格は、基本的には「おくびょう」です。また、シカやサルと同じように学習能力もあり、覚えが早く忘れません。この性格を利用して、被害対策を行うことが重要です。

⇒ 21 ページの集落点検、24 ページの防護柵の設置方法へ！！

体重が重く、ずんぐりとした体型のために、夏の暑さがつらく、常に泥あび（ヌタうち）して、水分の気化熱で体温を維持しているようです。

⇒ 痕跡の手がかりになります 16～17 ページへ！！

■ 頑丈な豚毛つきの豚革 ■

豚革の手袋などがあるように、イノシシの皮膚は厚くて強いため、たとえば鉄条網（有刺鉄線）などでは行動を制御することは難しいようです。また、体毛が太くて長いため、電気柵の電気は、毛皮の部分にはあまり流れないようです。鼻先と足先は体毛がないので、電気が流れます。

⇒ 26 ページの電気柵の設置方法へ！！

生まれたばかりのイノシシは縞模様があり、「瓜坊（ウリボウ）」とよばれています。この縞模様は3ヶ月齢を過ぎると消えていき、成獣と同じこげ茶色の毛色になります。

コラム イノブタとは？

生物学の分類では、イノシシも家畜の豚も *Sus scrofa* という学名がつけられている同じ種です。イノブタは、♂イノシシと、♀ブタを掛け合わせたものをいう場合がありますが、元々同じ種なので、簡単に雑種（正確には交雑亜種）をつくります。千葉県野外に放散された個体はイノブタだったという情報もありますが、その証拠は見つかっていません。

イノシシはどこにいる？

■ 一日の行動 ■

イノシシの行動調査から、森林内よりも、集落内の田畑に隣接した耕作放棄地や森の辺縁部（このマニュアルでは「林縁」といいます）で、一日中暮らしており、夜間、隣接する田畑に出没して加害することが分かってきました。



写真 単発的に出現したイノシシの痕跡
田んぼの真ん中まで侵入し、稲穂を円形になぎ倒して休息した痕。食害もみられた（2011年8月 南房総市白浜地区）。

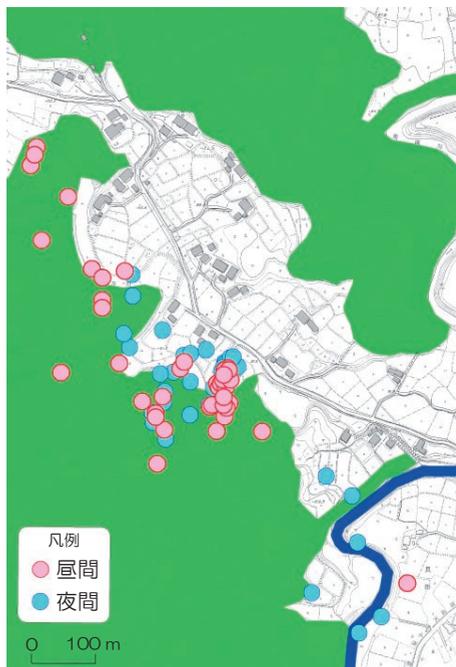


図 イノシシのいる地点

■ 数ヶ月間の行動 ■

ある集落に数日～数週間滞在すると、ある日突然、他の集落に移動してしまいます。そして、しばらくして、また他の集落へ移る行動をとり、ほぼ1～2 km 四方の範囲を動き回ります。すなわち、イノシシは森の生き物というより、集落（里）の生き物なのです。森林内の尾根部は移動経路に過ぎません。

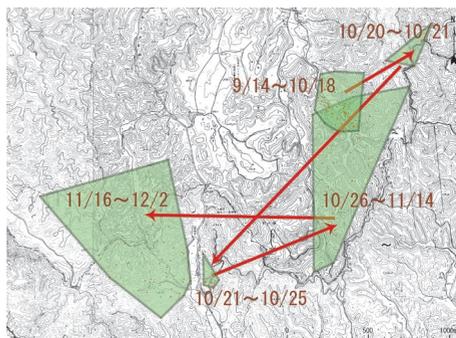


図 1頭のイノシシの数ヶ月の行動パターン
（参考文献2）

行動パターン

日中は集落の耕作放棄地などの林縁（森の辺縁）にいる
数ヶ月の間に、いくつかの集落を移動する
ほぼ1～2km 四方の行動範囲

■ 群れ構成 ■

イノシシの社会は一夫多妻制の母系社会で、メスの成獣（母親）とその幼獣（仔）や姉妹などと、単独のオス成獣、そして若いオスのグループに主に分かれて行動しています。

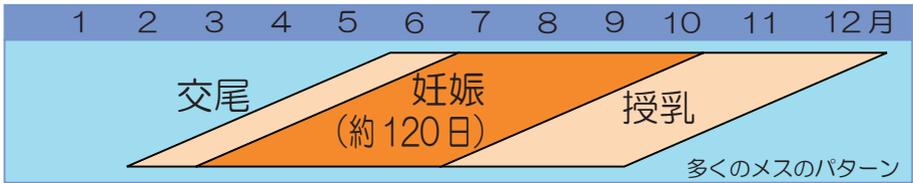
元来、夜行性ではありませんが、おくびょうなので人が活動する昼間を避けて、結果として夜行性となっているようです。

（参考文献3）



増える、増える

■ 繁殖の季節 ■



千葉県内では、メスの多く（全体のほぼ4分の3）は、7～10月に出産するようですが、他の時期の出産もみられます。

■ 繁殖率 ■

イノシシは1年に1回出産し、平均で4～5頭（最大で8頭）を産みます。1才から毎年繁殖することができ、野外での寿命は10才以下です。

年間増加率は極めて高く、海外事例では食物や気象の条件が良いと、1年間で1.63倍（ある年に雌雄込みで1000頭いたとすると、翌年は1630頭、5年後は1万頭、10年後は13万頭にもなる）にもなると推定されています。

（参考文献4）



繁殖パターン

春に交尾、7～10月に4～5頭（最大8頭）出産

1才で繁殖可能、以後毎年出産可能

条件が良い場合、1年間で1.63倍（海外事例）